

第6回教育講演会

講師 山本恭子さん

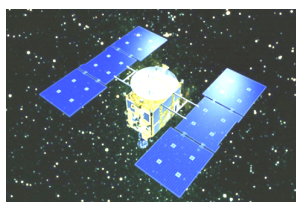
広げよう 未来! かなえよう 夢!

月 日: 6月24日 (水)

時 程: 第5校時 参観授業 1:40~2:25

第6校時 講 演 2:40~4:00

場 所: 二色小体育館



- ・熊取町生まれ
- ・早稲田大学理工学部、神戸大学理学部を経て東京大学大学院理学系研究科に在学中 JAXA (宇宙航空研究開発機構) で「はやぶさ」の運行「はやぶさ2」の計画に携わる。
- ・国立天文台や様々な科学館で開設の手伝いを経験、気象予報士の資格取得
- ・3児の母。長女、次女は0歳から保育所でたくましく育てており現在は8ヶ月の長男の育休中

2012年の聞き取りの際、子どもたちへいただいたお手紙です。

二色小学校にも2012年に来ていただき6年生に話をしてくれました。

その時も映像や資料も豊富で、子ども達にもわかりやすい話でした。育休でしばらくお休みしておりましたが、また講演を始められたとのことで、呼びました。ぜひみなさん、参加されて元気をもらい、夢で胸をふくらませてください。



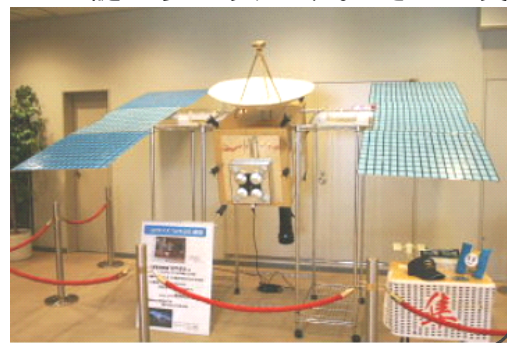
「宇宙」そして、「はやぶさ」をテーマにしたわたしの授業を一生懸命聞いてくれてありがとう。みんなからもらった感想文、嬉しかったです。

小惑星に名前をつけてみたいという感想が多かったので、みんなの名字の小惑星があるか、調べました。「山本、北川、中西、安部、坂口、川崎、橋本、森本、中川、野村、田中、服部、木曾、林、藤原、井上、田辺、加藤、吉田、辻、中村」という名前の小惑星は、すでにありました。(漢字ではなく、アルファベットで名前がついています。)他の人の小惑星は、まだありません。

みなさん、それぞれが、将来の夢を叶えられるよう、私も応援しています。

宇宙のことは、だんだんわかってきましたが、まだまだ謎が多くあります。Aさんが質問を書いてくれましたが、「宇宙の果て」には「かべ」があり、はりさけることはありませんが、まだ詳しいことはわかっていません。

「はやぶさ2」が小惑星1999JU3から砂を持って帰ってくるのは、2020年の予定です。みなさんは大学生なので、研究に参加してくれるのを待っています。



小学生に宇宙の授業

(朝日新聞より)

「はやぶさ」に携わった町職員

2010年7月16日



約60億キロの旅を終え、7年ぶりに地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」の制御などに携わった熊取町職員の山本恭子さん(25)による特別授業が13日、同町久保4丁目の町立東小学校であった。

同町出身の山本さんは早大や神戸大を経て、2007年から東大大学院理学系研究科で地球惑星科学を専攻。大学院生として2年間、宇宙航空研究開発機構(JAXA)でははやぶさの軌道修正や後継機の開発、小惑星の調査に携わった。大学院を修了後、地元に戻り、「人の役に立ちたい」と今年4月、町役場に就職し、現在は広報広聴課で勤務している。

山本さんは授業に参加した4年生の児童107人を前に、宇宙や小惑星、はやぶさについてスライドを使いながら説明。「はやぶさの大きさは」「一番遠い星はどれくらい離れているの」などの質問に丁寧に答えていた。山本さんは「熱心に聞いてもらいうれしかった。一人でも多く興味を持って勉強してもらえれば」と話した。

この日は、お子さんの授業を見られた後、ぜひ誘いあって、山本さんのお話を聞きに体育館へ来てください。

また、おじいちゃん、おばあちゃんのおられる方も、一緒にお話をぜひお聞きください。

夢について考える取り組みですので、6年生も一緒に聞かせていただく予定です。